



CIRのつぶやき

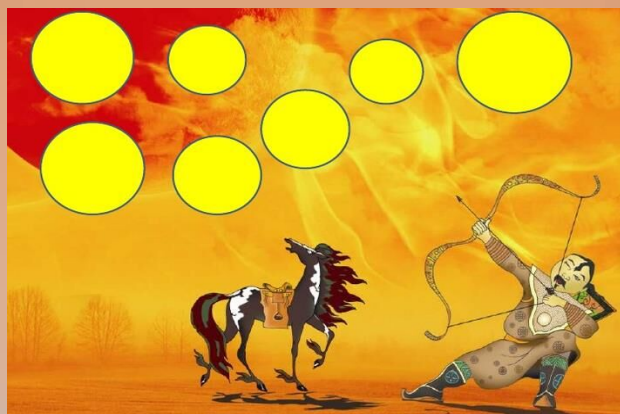


国際理解教育・国際交流・
国際協力・国際観光・多文化・
相互理解と友好を図る

Facebook page :
滝川市国際交流員/Takikawa CIRs

いいね!
押してね😊

2024.01.01 第45号 モンゴルの昔話 「エルヒー・メルグンと七つの太陽」



こんにちは、国際交流員のノミンです。今回はモンゴルの昔話の一つを皆さんに紹介します。

「むかしむかし、この世界には七つの太陽が出て、地球が干ばつになりました。大地が焼けつくように熱くなり、川は干上がり、草木も枯れ、人間は暑さと乾きにあえぎ、家畜は飢えて苦しみ、もう今にも倒れてしまうほどでした。そこで、この地に住む百発百中の弓の達人であるエルヒー・メルグンという人に多くの人々や生き物が助けを求めました。エルヒー・メルグンは力強く、情熱にあふれ、自分の能力にうぬぼれた若者

であったため、「私が7つの太陽を7本の矢で射って落としてみせる。出来なかったら親指を切り落とし、人であることをやめ、水も飲まず枯草さえ食べない生き物になって、暗い地下に住む」と宣言しました。

そうして6つの太陽を、東の方から6本の矢で射って落としましたが、最後の7つ目を射ろうとしたとき、ツバメが間に入り、その太陽を逃がしてしまいました。最後の太陽は弓の達人を恐れ、西の山の向こうに逃げ、隠れてしまいました。矢がツバメの尻尾に当たったため、割れてしまいました。

エルヒー・メルグンは自分の邪魔をしたツバメを馬で追いかけて撃とうとしました。自分の馬が「夜明けまでに、このツバメに追いつけなかったら、私の足を切り落とし、荒れ果てた草原に捨ててください。私は馬であることをやめ、ネズミになります」と宣言しました。それでも追いつくことが出来ず、怒ったエルヒー・メルグンは馬の両前足を切り落とし、その後自分の親指を切り落として地下に潜りました。このようにして馬がアラグダーガ、エルヒー・メルグンがタルバガンになりました。エルヒー・メルグンはいまだにタルバガンになったことを忘れ、最後の太陽を打ち落とそうと朝と夜に必ず、巣から出るようになったそうです。

この世でたった一つ残った太陽はエルヒー・メルグンが出てくることを恐れ、夜は西の山に隠れ、昼だけ出てくるようになり、昼と夜が入れ替わるようになりました。」

説明: 各モンゴル語の意味

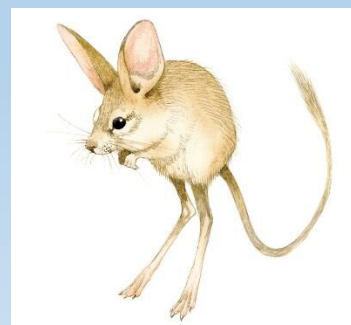
- ・エルヒーは親指、メルグンは百発百中の弓の達人
- ・アラグダーガ (トビネズミ、前足が短い)
- ・アラグは馬の色 (白黒のミックス)、ダーガは若い馬
- ・タルバガン (マーモット、足指が4本、親指がない)



ツバメ



タルバガン



アラグダーガ (トビネズミ)



CIRのつぶやき



国際理解教育・国際交流・
国際協力・国際観光・多文化・
相互理解と友好を図る

Facebook page :
滝川市国際交流員/Takikawa CIRs



2024.01.01 第45号 モンゴルのちょっと面白い風習！



モンゴルでは誰かの足にちょっとでも当たったり、踏まれたりしたら、その相手と必ず握手をします。足が当たったり、踏まれたりすると仲が悪くなり、敵同士になるという昔からの風習があります。そのため、自分に悪気がないことをアピールするために握手を求めます。

昔は握手を拒否されたら敵同士とみなしていたらしいです。現在は、もちろん、足を踏まれたら敵とみなしたり、怒ったりはしません。しかし、モンゴルの文化の一つになっているので、全くの赤の他人でも手を差し伸べ、握手を求めます。モンゴルへ訪れる皆さんが、もし誤って誰かの足を踏んだり、誰かに足を踏まれたりしたとき、相手が握手を求めたら驚かないで、握手してくださいね。

日本でくしゃみを1回したらいい噂を、2回したら悪い噂をされていると言われることがあります。モンゴルでも、似たような風習があります。左が耳なりするといいい噂、右が耳なりするとい悪い噂をしていると言われる。また、隣の人に左右どちらが耳なりを起こしているのかを当ててもらい、当たったらいい話、当たらなかったら悪い話をしているとされます。



仏教の国であるモンゴルでは12月25日がクリスマスという認識はありませんが、大晦日に新年を迎えるために、家族全員が集まってお祝いする風習があります。12月31日の夜、ちょうど12時になると、あちこちで花火が上がリ、家族でシャンパンを開けて乾杯して、年越しをします。

年越しのタイミングで、各家庭や施設でニュー・イヤール・ツリーが飾られ、ジングルベルが流れ、青い服を着た白髭の「冬のおじいさん」が白い服を着た「雪の娘たち」を連れてきて、子供たちにプレゼントを配ります。

モンゴルの子供たち、特に遊牧民の子供たちは、3歳から馬に乗り始めます。全国で開催されるナーダム（モンゴル最大の祭）では7歳から競馬の騎手として参加します。

また、ほとんどの男の子は、子供の時に、モンゴル相撲もします。近年は、サッカーやバスケットボールも人気がありますが、子供たちは昔からのスポーツであるモンゴル相撲や競馬を通して、たくましく育ちます。

